

| | |
|---|--|
|  | <p>2003年3月15日 第36号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p>年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/ E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p> |
|---|--|

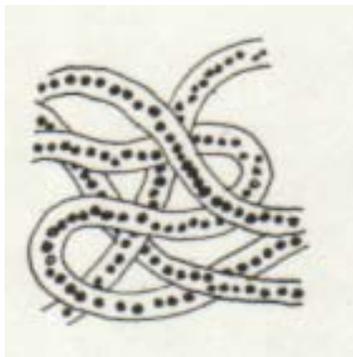
ガマガエルのことなど

百花繚乱、本当に過ごしやすい時候になりました。花は地味で目立たないことの多い樹木も、芽だしの時は、樹種や個体毎に多様な色彩で楽しませてくれましたが、日毎に緑が濃くなっていますね。今頃は気圧配置があわただしく変わり、強い風(青嵐とも呼ばれる)が最もよく吹く季節だそうです。



落葉樹の冬芽を保護していた芽鱗とともに、折れやすい新梢が落とされているのを、風のあとによく見かけます。ガーデニング愛好者にとっては、大事な枝が折られるなど春の嵐は春愁の一因ですが、込みすぎた部分を間引き、伸びすぎた枝の伸びを抑え(徒長した枝は垂れ下がって頂芽優勢の性質からも)樹冠を揃え、光を満遍なく当て、風通しをよくして病菌から守るなど植物にとって、風は無くてはならない自然現象ですね。

ところで、美術館前の自然池では梅祭り(3/1,3/2)にガマガエルの卵があったのに、その後オタマジャクシの姿が全然見当たりません。誰かが持っていったのなら少しは残る筈、水質が悪くて死んだにしては、もっと弱いヒメダカなども生きているので該当しないと思われます。普通、金魚はオタマジャクシを食わないんですが、食物が無くなった時に大きな緋鯉は餌食にしてしまうのでしょうか。泳いでいたミドリガメは外敵かも知れませんが全滅させることは出来ないでしょう。水鳥にしても食い尽くすことはないでしょうから、やはり犯人はザリガニのようです。



ガマガエルの卵は水温にもよるでしょうが、2週間くらいで孵化します。孵ったばかりは全身が尾っぽみたいで、口が尖った扁平な体形で1週間位水底にじっとしています。口で掴まっているんだそうです。この間が最も狙われやすい時期かもしれ

総会によせて

いたばし水と緑の会会長 鈴木 信子

薫風によって、花や緑の匂いがまちにただよい、普段気がつかない生き物の気配を身近に感じて、何ともいえない幸せな気分になる5月です。

いたばし水と緑の会も6年の歴史を刻みました。

連休にはふるさとや郊外にお出かけになって、自然の息吹を満喫された方も多いのではと思いますが、私はそんなとき、至福の境地の中にも人間のおろかさや小ささを痛感させられるのです。

このところ、朝は野鳥のさえずりで目をさまします。日曜朝のラジオの解説や新聞の「今朝の鳥」という連載のおかげで多少鳴き声を聞き分けることが出来るようになりました。

散歩コースの溜池公園のチョロチョロ流れる湧水にも勇気をもろう時もありますが、何より今の子供達は、あまりにも身近に自然がなさすぎて可哀想な気がします。

この板橋に残されたわずかな自然もこれ以上なくさないように、また少しづつでも回復に向けてのお手伝いできれば幸せと思います。

会員の皆様の地道な活動の積み重ねがそれを可能にし、未来を担う子供達に昔の子供達が経験した豊かな思い出を少しでも多く残してあげたらと思っています。

(前ページより)ません。その後、名前のおりオタマに変態しても、泳ぎは鈍いのでザリガニの餌食になってしまうことは去年観察しています。

実は、拙宅の狭庭には31年前に造ったキンギョの池があり、藻(アオコ)が発生し出した頃からガマガエルが産卵に来ています。1畳ほどの水溜りですが、当てにしてやって来る彼らの生きる場をなくすのがかわいそうで、池を使わせています。6月の初め頃陸に1cm位の小さな黒い蛙が、そろそろ這い上がって行く時は思わず応援したくなります、2ヶ月くらい水が替えられないのを我慢すればよく、金魚ともうまく共生しています。庭に池のあった家も最近は見かけなくなってしまい、近くの紅梅小学校の池でも今年はオタマジャクシが見られないのが残念です。

美術館前の自然池のほか、浄蓮寺裏のピオトープや紅梅小裏の湧き水池にも産卵が認められましたが、どこにもオタマジャクシは見当たりません。赤塚植物園では、万葉園の池にはオタ

マジャクシがいますが、事務所前の2つの池には一匹もいません。

何も変えたことはない由ですが、以前は沢山いたのに理由は分かりません。上記植物園以外の3箇所と四葉2丁目32番の崖下(芹やクレソンが生えている湿地)に拙宅の卵を放しましたが、4月末現在オタマジャクシがいるのは四葉の湿地だけです。日陰で藻が少なく生育が少し遅れているようですが、オタマジャクシは雑食性です(藻や草のほか魚やオタマの死骸も食します)から、水さえあればなんとか育つと思われそうですので見守りたいと思います。

猪鼻昭二

第7回いたばし水と緑の会総会の報告

4月26日赤塚5丁目集会所で第7回総会を開きました。会長のあいさつ後、14年度活動報告、会計報告が承認されました。ビールで乾杯、鈴木会長よりタケノコとフキの煮物、泉さんより枝豆の差し入れがあり、にぎやかに15年度の活動計画を話し合いました。

14年度活動報告のあらまし

会員数:14年度は65人+1団体で減少(13年度は72人)

会報の発行:年6回発行(300部)

定例観察会と清掃

毎月、定例的に赤塚城址周辺を観察しながら、ゴミ拾いをしました。

赤塚トンボ池等のザリガニ捕獲:捕獲数1809匹(前年は1001匹)

(平成14年5月13日~9月29日まで計10回実施)。

赤塚トンボ池管理方針の作成(15年2月)

池の測量をし、どのような管理をするか、それによって何を期待するか専門家の話を聞き、議論しました。

バッタ広場

手を入れないことによる自然復元の調査(昆虫、植生)。

生き物とふれ合う場として、ボーイスカウト、エコポリスセンター等の観察会や地元の子供達の生き物探してにぎわっている)。

赤塚公園観察会と意見交換会

その他

草原植生調査、長野合宿と自然学校、荒川鳴く虫観察会・バッタ広場観察会、夜間昆虫観察会、目黒自然教育園見学、梅まつりに参加等

平成14年度会計報告

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|----------|---------|-------|---------|
| 繰り越し | 243,209 | 通信費 | 93,203 |
| 年会費(65人) | 130,000 | 会場使用料 | 3,300 |
| 年会費(団体) | 6,000 | 消耗品費 | 46,692 |
| 寄付 | 31,000 | 備品費 | 5,796 |
| 参加費 | 15,000 | 保険料 | 970 |
| 雑収入 | 1,308 | その他 | 47,065 |
| | | 繰り越し | 229,491 |
| 収入計 | 426,517 | 支出計 | 426,517 |

15年度の活動について

いたばし水と緑の会は板橋区環境保全課と協定書を取り交わし、15年度より赤塚トンボ池を自然地として管理することになりました。管理に必要な資材は区で用意してもらいますが、それ以外の費用は全く出ません。無償であっても「自然とは」をしっかり頭に入れ、調査、記録しながら管理することを再度確認しました。

バッタ広場の樹木を伐採しました

4月26日10時から、これまで手をつけずにいたバッタ広場の樹木を切ることになりました。釣巻さんの指導のもと、今回は切るのは1m以上のアカメガシワとエノキ。切った木は、すべて樹高を測定し、また木についていた昆虫も採集しました(見落としも多かった)。若い木が多いバッタ広場では、樹林性の昆虫も多く、子供達でも普通なかなかなか見られない枝葉にいる昆虫を観察することができる絶好の観察フィールドです。



切った枝についた昆虫を探す

たくさんいたゴマダラチョウの幼虫。翌週サナギに、そして次の週には羽化していました。



この先バッタ広場はどうなる(私案)

バッタ広場を今後どのように管理するかについて書いてみたい。これは今までにここで見た昆虫や、自生してきた植物のデータ(取りまとめ中)をもとにした私の個人的な意見である。まず、回復してきた自然の実態について簡単にふれてみる。

バッタとキリギリス類について

草丈の高い草原を好むショウリョウバッタ、オンブバッタが大変多く、コバネイナゴも見られるが、畑などの裸地を好むクルマバッタモドキ、イボバッタはいない。移動力が大きいトノサマバッタもたまに見られるが、板橋区では本種が発生しているのは荒川河川敷だけである。

バッタに比べキリギリス類は豊富である。大型のサトクダマキモドキやハヤシノウマオイ、セスジツユムシ、ツユムシ、ヒメクサキリ、クビキリギリス、ササキリ、ウスイロササキリと8種が見られる。ヒメクサキリは23区内の発生地は数箇所に限られ、貴重なものである。

他の昆虫類他

草原性のキアゲハが夜間のねぐらにしたり、南方系のシロヘリクチブトカメムシが板橋区の最初の発見地にもなった。関東地方では2例目になると思われるサカモトクロモンヒゲナガゾウムシもここで採集されている。最近都市部では減少しているコガネグモ、植物ではヒナノウスツボ(来歴要確認)などが見つかっている。

エノキを食べる虫たち

4月26日に実生の木の一部を刈る作業を行なった。エノキが非常に多く、アカメガシワ、ヌルデ、ムクノキなどがあつた。圧倒的に多いエノキには多数の蝶蛾の幼虫があつていた。ゴマダラチョウ、スモモキリガ、チャイロキリガ、ニレキリガ、オカモトゲエダシャク、ニトベエダシャク、クロテンフユシャクなどである。いずれも武蔵野の雑木林に多いものである。

バッタ広場の昆虫群集

雑木林の林縁に多い昆虫が群集の主体になっているようだ。これはバッタ、キリギリス類にはっきりと表れている。裸地から草原を主な住み場所とするバッタ類に比べ、背の高い草原から森林を住み場所とするキリギリス類の比率が高い。林縁を特徴づけるセスジツユムシ、雑木林内のギャップに多いサトクダマキモドキ、関東地方平野部では雑木林内のアズマネザサにつくヒメクサキリなどが代表であろう。反面、荒川河川敷には見られる純草原性のヒメギス、コバネササキリはここでは見られない。

蝶も同様で草原性のモンキチョウ、ツバメシジミは少ないが、林縁性のコミスジ、ダイミョウセセリ、キチョウはしばしば見られる。

これは当然の結果であろう。徳丸田んぼの消滅したころは、赤塚崖線でも広い草原性環境が失われた時期である。草原性昆虫も運命を共にし、すでに30年が過ぎようとしている。新たに草原の環境を創っても住み着くはずの昆虫はすでにいない。荒川とここを隔てる1kmのコンクリート障壁を昆虫が乗り越えるにはまだ時間が足りないようである。ただし、純草原性の動物にとってこのバッタ広場はあまりに狭すぎる。水平方向に生活空間をひろげる動物は広さを要求するのである。

低木と草原と混合である雑木林のギャップ、これは薪炭用に伐採された後数年間続く環境である。昆虫採集にはここが絶好の場所であるのは経験的に良く知られている。動物の多様性という面だけに限って言えば、このバッタ広場は今の低木と草原が入り混じった状態がベストであろう。

(釣巻岳人)

勉強会「自然管理について気になることをもう一度考える」の報告

まちなかの自然のあり方についてよく議論になります。

「公園なんだからほったらかしというわけにはいかない」と自ら歯止めをかける「公園内での限界」の問題。「放っておくとゴミ捨て場になる」という恐怖感。みんなに「自然っていいね」とほめられるきれいな自然にしたいという願望。それから「なんとかならないかザリガニ退治」といった問題など。

そこで、5月11日(日)エコポリスセンターで勉強会を開きました。桜美林大学名誉教授の三島次郎先生に来ていただき、他でもないいたばし水と緑の会で管理をしている池や草原の疑問や意見について、先生を囲んで話し合いを行いました。

例によって、先生から「自然(ピオトープ)とは何か」という定義の説明がしっかりありました。地球であろうと赤塚であろうと定義は同じ。自然とは生き物のすむ場所、つまり好きな動植物も都合の悪い動植物(外来種であろうと、ザリガニであろうと)も住み、彼等がお互いに関わりながら繁栄する種がいたり、劣勢になる種がいる場所。もちろんその優劣は私達でなく彼等が決める。

自然地(ピオトープ)とは何か、をしっかりと認識したうえで、「何か特定の生き物を呼ぼう」と意図的に手を加える場合は、厳密に言うともはや自然ではないが、何のために何をしているのかを理解しながら行うこと。また公園に来る人たちに理解してもらうためには、教育(PR)は非常に大切である。

私達は自然地として管理しているつもりでも、矛盾や思いこみも多く、刺激に富んだお話でした。「トンボ池をどうするか」ひとつとっても、現在多くのピオトープが抱えている問題です。ザリ

ガニを苦労してとつても、捕獲した分だけザリガニは増えているのかもしれませんが、いったいどの位のザリガニの数量がいるのか把握するために、捕獲したザリガニに印をつけて放し、また印をつけて放す、ということを繰り返して、池にいるザリガニの個体数を推定できないか、という意見もありました。

ザリガニ食害説も検証してみる必要があります。オタマジャクシやニンジンを食べるのを見たり、クレソンや芹がザリガニが入った途端なくなってしまった、という経験はありますが、トンボが餌食になっているか、水草は全部食べてしまうのかという証拠はありません。ザリガニ以外にヤゴがない原因を検討することも必要です。私達が、独自の調査をしたり実験したりすることが、意味のあることだと思いました。出席者が少なくとても残念でした(14人)。

植物は個性的 - 篠原先生の植物画展から

3月末、赤塚植物園で先生の植物画展を見せて頂きました。日頃なんとなく見ている木や花。名前ぐらいは何とか知っているものもありますが、じっくり、ゆっくり見る事もなく何となくさらっと見ていたものが、篠原先生の対象を見つめ、観察した枝や花や実の絵を見て、植物は一つ一つが、つるの生え方、葉っぱの伸びる位置、葉のかたち、実のつき方、根の張り方、ゆっくり見ると、みんな違います。こんなに個性的だったのかと、あらためて思いました。

特に印象的だったのは、赤い実を付ける四つの植物でした。

一つは、オオカメノキ(ズイカズラ科)(右の写真)。上を向いて伸びた枝先に、たくさんの赤い



実を付けます。紅葉した丸い赤い葉の間でとてもきれいです。一つはヒイラギモチ(モチノキ科)。赤い実はいくち大きくて一つの花柄に一つの実、枝も上に赤い実が集まっています。特徴のある葉は平らでなく縁が少しまるまっています。一つはマルバノホロシ(ナス科)。ツル植物なのでしょうか。大きな枝ごと下へたれ下がり、実を付ける花柄も下に伸び赤い実を付けています。最後の一つは、モチノキ(モチノキ科)。実は枝に張り付くようについています。

赤い実の付き方だけでもこんなに違いがある、今まで私はずいぶん、適当に見ていたものです。これからはゆっくりと草や木を見てみようと思いました。

絵を言葉で表現するのは難しいですが、篠原先生の観察する熱意と、表現には尊敬してまいりました(瀬田 政江)

活動のお知らせ

運営委員会は毎月第1金曜日です。どなたでも参加できます。

6月運営委員会 日時：6月6日(金) 18:30~20:30

5月運営委員会 日時：7月4日(金) 18:30~20:30 エコポリスセンター

いずれもエコポリスセンターです。

会報の印刷・発送は奇数月の15日。お手伝いできる方は応援よろしく

日時：7月15日(木) 17:30~ 場所：エコポリスセンター

活動の問い合わせは瀬田まで(3969-7124)

毎月第4土曜日が定例の活動日です。この日は、赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に自然観察とゴミ拾い、必要な修理等の管理を行います。観察会は原則として雨天も実施します。

植物調査班 募集

会で管理することになった湧水水路とバツタ広場の植生調査を年4回行います。一緒に身近な野草の勉強をしませんか。 連絡先 坂本 3968-0760

ザリガニ対策班 募集

赤塚トンボ池の第1の課題は、本来の生き物以外の動物が多すぎることです。

定期観察会&清掃

徳丸が原公園の池はすごいゴミ捨て場になっており、周囲の柵も傷んでいます。ヤナギで柵を作り、清掃します。生物も探します。

日時：5月24日(土) 10:00~12:00 場所：徳丸が原公園池(高島第2小学校向)

必要な用具：長靴、ノコギリ、カケヤ、シュロ縄、タオル、ゴミ袋

定期観察会&清掃 in 赤塚

日時：6月28日(土) 10:00~12:00 集合場所：美術館前トンボ池

持ち物：軍手、ゴミを入れる袋、あれば図鑑、ルーペ、双眼鏡

いたばし水と緑の会はみなさんのサポートで運営されています。

会費納入のおねがい

会報や、自然の保全に必要な資材の購入などは会費によってまかなわれています。15年度の会費納入がまだの方は、よろしく。

年会費2000円 振込先：00170-8-352508いたばし水と緑の会

会の活動に参加してみたい方 事務局までご連絡下さい。

原稿をお寄せください。区内と周辺の水や緑、生き物など